

館燈

No.138

2001. 2. 15

目 次

大学の顔としての図書館の蔵書整備 (高橋亨)	1
21世紀へのたびだち	
壁のない図書館、ふたたび(鈴木康生).....	4
電子図書館の構築のために(中島孝司).....	5
発展途上の図書館に大きな愛を!	
(堀木和子).....	6
教官著作寄贈リスト	6

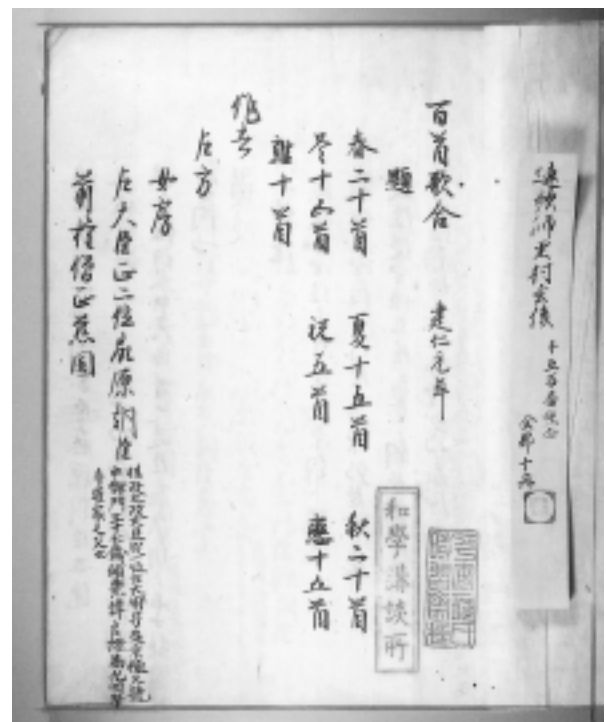
大学の顔としての図書館の蔵書整備

高 橋 亨

図書館は、研究教育の施設であるとともに、世界に誇りうる名古屋大学の顔としての特色を整備し充実していかなければならない。海外の名門大学を訪れたとき、図書館を中核として博物館や美術館、劇場などの施設が整い豊かに機能していることに感嘆し、ひるがえって日本の大学の文化基盤の底の浅さを思い知らされた経験は、多くの人の実感であろう。石を投げればノーベル賞学者にあたるといわれるような大学が誇るのは、豊かな文化環境であり、知的な交流の場であって、殺伐とした研究現場や設備ではない。大学のカフェで研究論議に花が咲き、図書館や博物館や美術館で一般にも開放された展示や講座はもちろん、サロンコンサートや詩の朗読会や演劇が催されることは、アメリカの州立大学で私の体験したことでもある。こうした夢を少しずつ名大でも実現していくべきだが、そのためには、図書館をはじめとする全学の文化拠点としての共有施設を、マスタープランに明確に位置づけていく必要がある。

残念ながらこれまでの図書館運営は、ともしれば学部間の調整に終り、全学の視点からあるべき図書館の姿を検討し現実に対応していくことが不十分であったといわざるをえな

い。すでに商議員会においては、これまでの「分散型」から「集中一元化」への基本方針が決められている。その前提には、各部局や研究室から本があふれていること、職員の定員削減の問題もあって、既存の「分散型」システムが維持できないという、せっぱつまった事実がある。そうした消極的な理由ばかりで



『千五百番歌合』巻首及びその極札

なく、書物の集中一元化によって、利便性は飛躍的に高まるし、重複購入の無駄も省くことができる。そのためには、組織や体制の一元化もさることながら、何よりも十分なスペース、つまり大規模な建物が必要なのだ。それなしには、特に文献の活用が研究と教育に不可欠な文系にとっては、夢も希望もありえない。

もちろん、21世紀の情報化社会に対応した電子化も図書館の緊急課題で、遅ればせながら本学でも「ハイブリッド図書館」としての東館の概算要求をまとめていて、これは主に理系部局にとって切実な必要性がある。学術雑誌を中心にした電子化は急速に進行しているし、価格の急騰と予算の削減という二重苦の、これまた消極的な必要性にせまられて、全学における重複雑誌の調整ルール作りも進めている。この問題も、本来は名大としての「電子図書館」の理念と不可分のもので、いわば禍（わざわい）を転じて福となす積極性が求められている。そこでも重要なのは、外部からの情報の受信ではなくて、いかにして価値ある固有の情報が発信できるかということであり、この点では、文系部局にも大きな役割が期待される。

ここでは、名古屋大学の図書館の意義と将来構想についての上記のような問題を前提としたうえで、とりあえず現在もなしうる蔵書整備について考えたい。どれほど「電子図書館化」したところで書物や文献が不用になるわけではないし、情報発信していくためには、すでにある知的財産を十分に活用しなければならないからである。

これまでも、治水関係資料を中心とした「高木家文書」の整理や、本草学（植物学）関係の「伊藤文庫」のデータベース化に取り組んできた実績がある。また、和漢古典籍整理専門委員会では、神宮皇學館文庫・岡谷文庫・小林文庫、あるいは各部局研究室に所蔵の国書や漢籍の調査と目録作り、そのデータ

ベースをインターネットで公開するための準備も進めている。図書館職員有志の勉強会として、文学研究科の教員のボランティアによる和古書と漢籍の勉強会も行なわれている。これらは、やはり図書館に設立が望まれている「研究開発室」の仕事を取先行するものかといえよう。

こうした基盤整備の実現への努力と並行して、現状においても可能な作業もあり、発信すべき名大独自の情報を確認して、それを基礎とした蔵書や文献資料の整備充実を課題として、その将来に向けた活動を進めていかねばならない。中央館には現在、文系部局のコレクションを移管して、「官報・議会資料・法判例コーナー」「東洋学文献コーナー」「地方史文献コーナー」「教職教育研究図書コーナー」という4つの研究コーナーが設置されていて、わずかながら毎年予算を付けて、その充実を計っている。平成12年度には、「教職教育研究図書コーナー」の収書計画を再検討して、中等教育研究図書を集め、全国的にみてもっとも充実したコレクションとしていく方針が出された。また、従来から「外国文学セクション」のコーナー化をしてほしいという強い希望があるが、現状では、スペースと予算の制約があって実現できない。そればかりでなく、研究コーナーの原則として、名大図書館ならではの、世界に誇りうるコレクションとしての実質が欠かせないのである。こうした視点から、既設の研究コーナーの再検討も必要であるし、将来に向けては、各部局に埋もれた貴重なコレクションを発掘し、その集積を計っていかねばならない。

ところで、名大には、世界的な視野からみて、貴重な文献や資料はどれほどあるのだろうか。私の専門とする日本文学の立場からみると、旧七帝大の中での歴史の浅さもあって、東大や京大、東北大や九大と比較すると、古文献の量はそれほど多くはない。とはいえ、すでにふれた「和漢古典籍整理専門委員会」が対象としている文庫などのコレクションは

貴重なもので、伊勢物語や連歌関係、あるいは医書関係の資料など、これから紹介し活用すべきものが少なくない。中央館の4階の、これまではファカルティラウンジとして十分に機能していたとはいえない部屋を改装して、展示室とすることができたので、今後は積極的にこうした貴重書を名大の内外に紹介していきたい。それにつけても、展示棚（ショーケース）を購入するための予算にさえ窮しているという貧しい現実がある。こうした活動を具体化していくためには、各学部の図書館・図書室はそれとして、中央館にとっては独自予算の貧弱なことが問題である。全学経費からの措置を積極的に働きかけるとともに、全学のマスタープラン等における図書館の位置づけを、予算の伴った確実なものにしていく必要がある。

コレクションの充実のためには、一部の私立大学のように豊富な資金があって新たに購入できればいいのだが、現状では絶望的である。大型コレクションの予算も活用したいが、ここ数年来ていないし、古典籍のようなものは、古書店の目録に即座に対応できる資金の準備がいる。人文社会科学系特別図書の購入も、コレクションとしての充実を選考基準とするように改めたが、少ない予算がさらに減る傾向にある。残された手段は、積極的に寄贈を受け入れることしかない。

今年度は、後藤重郎名誉教授から『千五百番歌合』の近世初期の貴重な写本の寄贈を受けた。また、天白区の浅見汎氏から「中国科学技術典籍通彙」全50巻の寄贈を受けた。教官の著書や学術刊行物についての寄贈の受け入れ制度は従来からあるが、あまり知られていず、あらためて依頼したことに応じて集まりは始めている。特別コーナーを設けて展示するので、一般用と併せて二部の寄贈をお願いしたい。ちなみに、共通教育や学習用の購入希望図書のアンケートには多くの推薦があったので、可能なものから順次購入している。



中央館3階ホール 著作展示コーナー

毎年こうしたアンケートを続けていきたいので、埋もれた貴重書やコレクションの情報も含めて、協力していただきたい。

さて、寄贈によるコレクションの充実であるが、時々ある寄贈の申し入れにスペースが無いために応じられないという矛盾もある。それは、一括して特別コーナーに保存してほしいというご希望には応じられず、必要な書物や文献だけを撰ばせていただき、従来の蔵書の中に加えるほかないからである。とはいえ、文字どおり貴重なコレクションであるならば無理してでも例外とすべきだし、現状の制約をご理解いただいて、貴重書の寄贈をお願いするという努力が不十分であったことも反省しなくてはならない。寄贈による相続税の減免など、現行法の制約があるのだろうが、積極的な策を名大として講じていくべきであろう。これは、何も貴重書に限らず、建物や施設などに民間の寄付を受け入れるためにも必要で、はじめに述べた欧米の大学などの文化基盤の充実を支えているものであった。そのためには、寄付したくなるような名大としての魅力をアピールしなければならず、たんに名誉を顕彰するだけでなく、実利を伴った受け入れ条件を整えていかねばならない。
(たかはし・とおる 文学研究科教官)

21世紀へのたびだち

壁のない図書館、ふたたび

鈴木 康 生

壁のない図書館という言葉が、かつて、総合目録データベースの形成（書誌情報の共有）やそれに基づくILLの進展という文脈で語られたことがある。しかし、ネット時代の今日、この言葉は、一方では電子化されたテキスト（一次情報）の共有を含む電子図書館を意味するものとなったといってもいいだろう（たとえばロジェ・シャルチエ「壁のない図書館」<http://www.honco.net/9903/roundtable-j.html>）。他方、壁のない図書館は、個々の図書館が担っている機能を、ネットによるコラボレーションによって実現するイメージでもある。たとえば、The Internet Public Library (IPL) (<http://www.ipl.org/>) というサイトでは、レファレンスの質問がIPLのメンバーであるライブラリアンにメールで転送され、利用者への回答がなされる仕組みになっている。

ところで、レファレンスというのは、図書館職員が関わる最も専門性の高い業務であるといわれてきた。しかし、ある私立大学では、この仕事もアウトソーシングの対象になっているという。確かに、3年ぐらいで異動になる職場にあっては、レファレンスのスキルを身に付けるといっても限界があるから、サーチャーのスキルなどを持つ専門的職員を抱える外部の会社にまかせてしまうというのも、リストラ時代を生き残るためには、図書館にとって一つの選択肢であるのかもしれない。

図書館の役割は、昔も今も、利用者と情報・資料を媒介することであり、レファレンスは、この役割を最も体現している図書館機能の一つであろう。しかし、ネット時代になって、図書館が媒介しなければならない情

報は、従来の紙媒体だけでなく、サイバースペース上のオブジェクトにまで拡大した。探索空間が無限に広がったのである。従来の伝統的なレファレンスのスキルだけでは十分ではなくなったわけだ。

こうしたことを背景に考えると、レファレンスというのは、ライブラリアン固有の仕事として限定する必要はないように思えてくる。市民や大学院生や大学教官の方がうまく回答できる場合もあるはずだ。さらに、こうした回答がデータベース化されて共有されれば、ライブラリアンのスキルアップにもつながるだろう。

教えて！ goo (<http://oshiete.goo.ne.jp/>) というサイトは、上述した可能性を秘めているといえるかもしれない。「優秀な回答者にはマスターポイントがたまり、高得点者には記念品が送られます」とあり、それなりに評価とインセンティブを与える仕組みもある。同じような試みが大学図書館や公共図書館など館種を越えた図書館の職員、大学等の研究者、及び市民が参加することによってパブリックなものとして実現されれば、それもまた壁のない図書館であり、図書館の市民への開放やインターネット・デモクラシーの一端であるといえるだろう。

（すずき・やすお 理学部・理学研究科・多元数理科学研究科図書掛長）



電子図書館の構築のために

中 島 孝 司

長尾真日本図書館協会会長（現京大総長）が、IT革命の中での図書館の課題として、1. インターネットに流布しているが、いつ消されるかわからない膨大な量の貴重な情報に対し、人類の知的活動の結果を保存し、将来に伝承していく使命を持つ図書館がどのような情報収集活動をすべきか、またできるか 2. 本や資料、録音、録画などの形で保存されてきた過去の資料を電子的な世界にのせて、誰でもどこでもいつでも、自由に利用できるようにすることを提言されている（図書館雑誌 Vol.94, No.10, p.766-767（2000））。

第1の課題については、現在の私など考えるすべもつかない世界であるが、このように明瞭に課題が提示されると、必ず21世紀のいつかには図書館側もなんらかの対応策を考えだしていることであろうと思う。

第2の課題については、ボランティアでインターネット公開図書館を運営している青空文庫の活動に学ぶことが多いと思う。（青空文庫：<http://www.aozora.gr.jp/>）

青空文庫では著者の死後、50年をへて著作権の消滅した作品と、著作権所有者が金銭の授受を伴わない公開に同意した作品を、ボランティアにより電子化している。公開されたファイルに入力者、校正者、ファイル作成者名等も付され、コピー、再配布時にはこれら電子化に寄与した個人名を削除しないよう求めている。1997年にスタートしたが、文学作品を中心に2001.2.19現在、1,287作品がテキス

ト、HTML、エキスパンドブック形式で提供されている。

Epicwin等、スキャナーの進歩により、既製図書電子化は非常に容易になったが、公開提供のためには著作権処理をクリアしなければならない。著作権処理は図書館にとって未開拓の分野である。（利用が集中する学習用図書について、どなたかpioneerが、著作権料を支払い、電子ファイルを提供、維持するサービスと、複本を購入し従来どおりのサービスを提供することの得失を明らかにしてくださいを私は期待している。）しかし、宮澤賢治も太宰治も既に著作権は消滅していることを考えると、図書館所蔵本の中に著作権処理が不用で、かつ電子化を必要とする図書は多いのではなかろうか。

図書館が重複作業の無駄を省くために連携をとりあって、そのような候補図書を用意し、テキスト電子化の講座を定期的開催する等によりボランティアを組織化し、作成された電子ファイルを図書館サーバー、ネットワークで公開することにより電子図書館の構築は少しでも進まないだろうか。

なお、電子本の作成方法についての講座を設けることなども、学内外のニーズは存在するのではなかろうか、と思うのである。（なかじま・たかし 工学部・工学研究科図書掛長）



発展途上の図書館に大きな愛を！

堀 木 和 子

図書館に関わるいろんな立場の人からみて、どんな図書館が理想的なものだろうか。

まず、利用者という立場から見たとしたら、自分が使いたいときに図書館が開いていて、図書館には多くの資料があり、それらが分かりやすく上手に配置・保管されており、自分の利用したい資料があり、簡単にそれが利用できるようになっており、またその他のことでも必要な情報は漏れなく分かりやすく提供され、施設や職員の対応も気持ちよく便利に使うことができるものだろうか。

今度は逆に運営する側、職員から見れば、利用者のマナーが良く、ルールは守られ、館内は適度な静寂と清潔な環境を保ち、要領よく自分の要求を伝え、何度も同じ説明をしなくても図書館の使い方、パソコンの使い方、検索の仕方等をよく理解してくれたいだろうか。

また、組織内においては図書館の必要性・重要性が十分理解され、豊富な資金と豊富な人員を手当してくれる。図書館内においても職員や組織はそれぞれの立場の責任を果たし、かつ新たな大きな課題には臨機応変に身分や縦割りの枠を越えて協力しあい、利用者や大学・図書館・学術情報の状況を理解・学習し意見を述べる機会があり、皆が健康で明るく、ゆとりを持って前向きに仕事ができるような、

そんな状況になればいいがと今の私は思っている。

しかし人によって理想は千差万別で全ての人を満足させるものは出来無い。かなり皆が満足している図書館があったとしてもそれで固定されてしまえば、それはまた不満足なものとなっていくであろう。理想の図書館は常に時代や図書館に関わる人々によって変化するもので、図書館は常に発展途上の状態といえる。そして現実の図書館は時代や人々によってつくられてきたものの結果だと思う。今の名大図書館は名大の歴史が作ったもので、また現代の図書館に関わる人々や組織は未来の図書館に対して責任を負っていると思う。

現代の私たちがどうすればよりよい図書館を残すことができるか、発展途上の図書館をどうすればよいか、それぞれの立場で自己主張・不満を述べるだけでなく、この現状の背景を相互に理解し、それを実現するためにはどうすればよいか考えることが必要だと思う。

つまり、図書館は常に関係者の愛と努力を必要としているやっかいなもののようなから、新世紀には図書館と図書館に関わる人々に対してもっと大きな愛を持っていただきたいと切に希望する。

(ほりき・かずこ 教育学部・教育発達科学研究科図書掛長)

●●●●●●●●●●●●●●●● 教官著作寄贈リスト(平成12年11月-13年1月) ●●●●●●●●●●●●●●●●

平成12年11月に中央図書館の蔵書の充実を図るために、附属図書館長名で教官各位に自著の寄贈をお願いしました。以下は今までにいただいた図書のリストです。ご恵贈ありがとうございました。寄贈図書は各書架に配架予定のほか、3階ホールの著作コーナーに展示しています。今後ともご協力のほど、よろしく願いいたします。(情報管理課資料管理掛)

寄贈者	部局	書名 / 編著訳者：出版社，刊行年
福澤直樹	経済学	Staatliche Arbeitslosenunterstützung in .../ Fukuzawa,N.: Peter Lang, c1995
郷通子	理学	Tracing Biological Evolution in Protein .../ Go,M.etc.ed.: Elsevier, c1995
速水敏彦	教育学	人間発達と心理学 / 小嶋秀夫他編：金子書房，2000.3
林上	情文学	近代都市の交通と地域発展 / 林上：大明堂，2000.8
伊藤喬廣	医学	志を生きる / 伊藤喬廣：名大小児外科，2000.3
岩坂泰信	水圏	岩波講座地球惑星科学 3 / 住明正他著：岩波書店，1996.11
岩坂泰信	水圏	岩波講座地球環境学 3 / 安成哲三他編：岩波書店，2000.1
垣谷俊昭	理学	電子と生命(シ-ズ・ニューバ`イオジ`ックス -1)/ 垣谷俊昭他編：共立出版，2000.6
垣谷俊昭	理学	光・物質・生命と反応 上下 / 垣谷俊昭：丸善，平成10
垣谷俊昭	理学	光がもたらす生命と地球の共進化 / 垣谷俊昭他編：中部経済新聞社，1999.4
垣谷俊昭	理学	生体とエネルギーの物理-生命力のみなもと- / 日本物理学会編：裳華房，2000.11
粥川裕平	医学	精神分裂病を正しく理解するために / 粥川裕平監訳：萌文社，2000.6
木村宏恒	国開	インドネシア現代政治の構造 / 木村宏恒：三一書房 1989.12
木村宏恒	国開	現代世界の政治経済地図 / 木村宏恒：三一書房，1993.4
木村宏恒	国開	インドネシア-政治・経済体制の分析- / 木村宏恒：三一書房，1987.5
木村宏恒	国開	フィリピン-開発・国家・NGO- / 木村宏恒：三一書房，1998.1
北原淳	経研	東南アジアの経済 / 北原淳他：世界思想社，2000.4
児玉逸雄	環研	Recent Progress in Electropharmacology .../ Toyama,J.etc.ed : CRC , c1996
久場健司	医学	Slow Synaptic Responses and Modulation./ Kuba,K. etc.ed.: Springer, c2000
杳名宗春	工学	レーザー加工入門シリーズ 1 - 4 / レザ-加工研究会編：マシスト出版. 平成8.7
杳名宗春	工学	レーザーの科学(NHKブ`ックス)/ 杳名宗春：日本放送協会，1998.11
宮村實晴	保体	呼吸-運動に対する応答とトレーニング効果- / 宮村實晴他編：NAP，1998.9
宮村實晴	保体	高所-運動生理学的基礎と応用- / 宮村實晴：NAP，2000.9
中村正秋	工学	移動層工学-実際と基礎- / 篠原邦夫他：北大出版会，2000.12
浪川幸彦	多元	デカルトの精神と代数幾何 増補版 / 飯高茂他：日本評論社，1993
浪川幸彦	多元	数学史 1700-1900 1 - 3 / Dieudonne,J: 岩波書店，1985
佐藤肇	多元	位相幾何(岩波講座現代数学の基礎)/ 佐藤肇：岩波書店，2000.10
佐藤肇	多元	幾何の魔術-魔法陣から現代数学へ- / 佐藤肇他：日本評論社，1999.8
佐藤肇	多元	リー代数入門-線形代数の続編として- / 佐藤肇：裳華房，2000.10
佐藤肇	多元	Algebraic Topology:an intuitive approach./ Sato,H.: AMS, c1996
清水裕之	工学	21世紀の地域劇場 / 清水裕之：鹿島出版会，1999.7
清水裕之	工学	劇場の構図(SD選書)/ 清水裕之：鹿島出版会，1996
篠原久典	理学	フラ-レンの化学と物理 / 篠原久典他：名大出版会，2000.3
田島毓堂	文学	源氏物語絵巻詞書総索引 / 田島毓堂編：東海学園，昭和45
田島毓堂	文学	日本語尾音索引-古語編- / 田島毓堂他編：笠間書院，昭和57
田島毓堂	文学	語彙研究資料集 新訂版 / 田島毓堂編：自費出版，1996
田島毓堂	文学	語彙研究資料集 増補改訂版 / 田島毓堂編：自費出版，1994
田島毓堂	文学	蒙古襲来絵詞詞書本文並びに総索引 / 田島毓堂編：自費出版，昭和50
田島毓堂	文学	語彙研究資料集 / 田島毓堂編：自費出版，[]
田島毓堂	文学	後撰和歌集研究史 / 田島毓堂：東海学園，昭和45
田島毓堂	文学	正法眼蔵の国語学的研究 / 田島毓堂編：笠間書院，昭和53
田島毓堂	文学	仮名書き法華経の研究 / 田島毓堂編：右文書院，1998.6
田島毓堂	文学	比較語彙研究序説 / 田島毓堂：笠間書院，1999.1
高橋公明	国開	岩波講座日本文学史 第5巻 13・14世紀 / 岩波書店，2000.3
高橋公明	国開	境界の日本史 / 村井章介他編：山川出版社，1999.10
高橋公明	国開	岩波講座日本通史 第10巻 中世 / 岩波書店，2000.6
高橋俊彦	保体	大学生のための精神医学 / 高橋俊彦：岩崎学術出版，1998.4
田中剛	理学	宇宙と地球の化学(新化学ライブラ-)/ 増田彰正他：大日本図書，1991.7
坪木和久	水圏	Influence of the Arctic on Mid-Latitude .../ Kimura R.etc.ed.: U.P., c1997
梅村浩	多元	楕円関数論-楕円曲線の解析学- / 梅村浩：東大出版会，2000.7
安田信之	国開	東南アジア法 / 安田信之：日本評論社，2000.10

〔国内図書館関係日誌〕

- 12.10.11 電子ジャーナル・タスクフォースとエルゼビア社との第1回協議(於:東京大学)出席者:伊藤館長、小花情報システム課長
- 12.10.12 第49回国公立大学図書館協力委員会(於:東京大学)出席者:伊藤館長、田村事務部長
- 12.10.12 平成12年度国立国会図書館と大学図書館長との懇談会(於:国立国会図書館)出席者:伊藤館長、田村事務部長
- 12.10.19~10.20 第33回国立七大学附属図書館部課長会議・第74次国立七大学附属図書館協議会(於:九州大学)出席者:伊藤館長、田村事務部長、藤森情報管理課長
- 12.11.28~11.29 国立大学図書館協議会理事会等(於:京都大学)出席者:伊藤館長、田村事務部長、小花情報システム課長
- 12.11.30 電子ジャーナル・タスクフォース会議、電子ジャーナル・タスクフォースとエルゼビア社との第2回協議(於:京都大学)出席者:伊藤館長、小花情報システム課長
- 12.12.7~12.8 第13回国立大学図書館協議会シンポジウム(西地区)(於:名古屋大学)出席者:伊藤館長、田村事務部長、藤森情報管理課長、玉木情報サービス課長、小花情報システム課長
- 12.12.13 東海地区国立大学図書館協議会事務連絡会(於:名古屋大学)出席者:田村事務部長、藤森情報管理課長、玉木情報サービス課長、小花情報システム課長、加藤情報管理課長補佐、中井情報サービス課図書館専門員

〔学内動向〕 <12.10.6-13.1.5>

会議

- ・第12-4回図書館システム検討委員会<10.12>
 - ・教職教育研究図書コーナー小委員会<10.13>
 - ・第12-6回学術情報事務会議<10.31>
 - ・第12-3回蔵書整備委員会<11.7>
 - ・第12-3回電子図書館推進委員会<11.7>
 - ・文系図書連絡会<11.7>
 - ・第12-3回自己評価実施委員会<11.15>
 - ・第12-5回図書館システム検討委員会<11.20>
 - ・第12-4回附属図書館商議員会<11.22>
 - ・名古屋大学附属図書館中央図書館利用細則の改正について
 - ・平成12年度図書購入予算の補正について
 - ・研究開発室の設置について
 - ・中央図書館開館時間の延長について
 - ・電子ジャーナルの導入経費について
 - ・教官刊行著作の収集について
 - ・第12-7回学術情報事務会議<11.24>
 - ・文系図書連絡会<11.24>
 - ・教職教育研究図書コーナー小委員会<12.15>
 - ・文系図書連絡会<12.15>
 - ・和漢古典籍整理専門委員会<12.19>
 - ・第12-8回学術情報事務会議<12.22>研修・講習会等への参加
 - ・平成12年度東海北陸地区著作権セミナー(於:金沢市)<10.19~10.20> 参加者:岡美江(国際)
 - ・平成12年度大学図書館職員講習会(於:京都大学)<11.6~11.9> 参加者:澤口由好(法)
 - ・平成12年度目録システム地域講習会(於:名古屋大学)<11.8~11.10> 参加者:堀茂、近藤悦子(以上中)
 - ・西洋社会科学古典資料講習会(於:一橋大学)<11.14~11.17> 参加者:萩誠一(中)
 - ・平成12年度情報ネットワーク担当職員研修(於:国立情報学研究所)<12.4~12.7> 参加者:岡本正貴(中)
 - ・第13回国立大学図書館協議会シンポジウム(西地区)(於:名古屋大学)<12.7~12.8> 参加者:伊藤哲谷(情文)、戸床トシ子(理)、中島孝司(工)
 - ・平成12年度第2回東海地区医学図書館協議会実務担当者会議(於:愛知医科大学)<12.12>参加者:大嶋寛子(医)、岩坂令子、樋口由紀恵(以上医・保健)
 - ・平成12年度新CAT/ILLシステム説明会(於:名古屋大学)<12.13> 参加者:89名
 - ・初年次における情報リテラシー教育に関する研究会(於:名古屋大学)<12.15> 参加者:26名
 - ・全文電子ジャーナル説明会(於:名古屋大学)<12.21>参加者:42名
- 部局動向
- ・国際開発研究科情報資料室 - - 図書電算貸出開始(1月から)